



海辺の植物ウォッチング



海辺の植物の工夫に気付く

海辺ならではの植物を観察し、海中とは違った海辺の環境の特異性に気付くことができます。海が荒れて波際に近付けない時の臨時プログラムとしても有効です。

対象 小学生

場所 砂浜

時間 1時間

プログラムの前に...

1. 用意するもの

- | | |
|-----------|-----------------|
| 参加者(人数分) | スタッフ |
| ①ルーペ | ⑤植物図鑑 |
| ②筆記用具 | スタッフが使い慣れたもの |
| ③記録用紙 | ⑥解説用品 |
| 「事前の準備」参照 | 植物の写真など解説内容に応じて |
| ④移植ごて | |
| グループ分でも可 | |

※その他に着替え・帽子・タオル・日焼け止めなど活動のしやすい服装や道具を用意する。



2. 事前の準備

範囲をしっかり決めよう

- ・実施範囲の確認は必ず行いましょう。
- ・参加者の行動を把握できるように安全管理担当者を置き、参加者が夢中になってもはぐれないように注意しましょう。
- ・観察上のポイントはココがポイント参照

記録用紙を作ろう！

- ・観察時のポイントが分かるようにあらかじめ専用の記録用紙を作りましょう。

- 記録用紙の記述事項
- ・日付・氏名
 - ・デッサンスペース
 - ・生えていた場所
 - ・メモ欄（気付いたこと）



プログラムの本番！

1. 過酷な環境に気付こう！（約10分）

参加者がそろい挨拶を済ませたら、波打ち際と平行に参加者を並べます。参加者を植物に置き換え、足場の不自由さ、強烈な日光、乾燥した大地など、海辺の過酷な環境について紹介をします。

2. 海辺の植物を見つけよう！（約40分）

4～6名程度のグループワークで実施します。観察範囲を決め、範囲内をグループが自由に移動しながら海辺の植物を探します。

内陸の身近な植物と比較しながら、海辺ならではの植物を見つけましょう。以下が見つける際のポイントです。

- ・葉っぱの厚みや色ツヤはどう違う？
- ・どうやって強風から耐えてる？
- ・崩れる砂からどうやって体を支える？

植物を見つけたら、デッサンしながら記録用紙にメモを取りましょう。また移植ごてで根を観察したり、ルーペで葉や茎を観察するとより多くの新しい発見があります。



3. どんな植物があったかな（約10分）

植物を観察したら集合し、それぞれの見つけた海辺の植物の特徴を発表しあいましょう。参加者の発見した特徴に対して、スタッフは以下のような解説をすると、発見と理解がより深まるでしょう。



①葉の特徴

海浜植物は潮風の塩分や蒸散から葉を守るために光沢があるものが多い。また飛砂から傷つかないように毛を持つものもある。



②根の特徴

不安定な砂浜で体を固定したり、わずかな水分や養分を得るため、海浜植物は根の張り方を工夫している。



③植物の体型

不安定な地面と強風に耐えるために背の低い植物や、つる性の植物が多い。



ココがポイント

マナーを守った観察を

海浜植物には貴重な種類も多く、生息環境を大切にする必要があります。

無暗に穴を掘る、植物を踏み荒らすなど、環境を傷つけないような観察時のマナーを説明時に伝え、実施中も注意しましょう。

多様な植物の生えた場所で行う

海岸の起伏や水のたまり方など環境の違いで植物の生え方が異なります。より多くの植物が観察できる場所を選んで実施しましょう。

